

平成25年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

墨 江 小 学 校

児童数

110

平均正答率

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	56.4	44.8	75.1	54.1
大阪市	59.1	46.6	75.9	56.4
全国	62.7	49.4	77.2	58.4

平均無解答率（％）

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	15.7	20.6	2.9	10.9
大阪市	11.5	14.2	1.9	6.5
全国	10.7	13.6	1.7	6.3

結果の概要

- 国語、算数とも全国・大阪市平均を下回る結果となっている。大きな要因としては、質問紙調査からも読みとれるように「書くこと」に対して強い抵抗感を抱いていることが考えられる。実際に、記述式の解答を求める設問についてはいずれもつまずきが多く見られる。
- 今年度の子どもの実態として、「自分を控えめに見てしまう」、「自分に自信が持てない」といった傾向がみられる。無答率が高く全国・大阪市平均に比べると算数A以外は5ポイント前後高くなっている。無答率が高いことと、質問紙調査による「どちらかといえば当てはまる」という回答が多いのは根気・自信のなさからきているものと思われる。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

- 基本的な生活習慣の見直しを再認識していく
本校では、数年前から保護者・児童を対象に「学校生活アンケート」を実施している。「毎日、朝ごはんを食べてきている」という項目については、今回の調査と同じように9割以上が肯定的な回答をしている。しかし、「あてはまる」という回答が、年々僅かに減少傾向にある。「寝る時刻」についても、決まっていないという児童が多いことから家庭と連携しながら今後も基本的な生活習慣の見直しを再認識していく必要がある。
- 「書くこと」への抵抗感を取り除いていくための指導を工夫していく
本校では、校内研究のテーマとして「伝え合う力」の育成に取り組んできている。授業の中で自分の意見を発表したり友だちの話をしっかり聞こうとする力は徐々に育ってきているが、今回の調査で明らかに言えることは「書く力」の不足である。「書く力」については、教育活動のあらゆる場面で重点的に指導していくとともに、「書くこと」に対する抵抗感を取り除いていくための指導を工夫していく必要がある。
- 道徳心・社会性の育成に向けた取り組みを推進していく
「自分に自信が持てない」という傾向がみられることから、「学校生活アンケート」に「自分にはよいところがある」という自尊感情に関連する項目を入れるとともに、授業中、発表のしやすい雰囲気となるような学級集団づくりに取り組む。また、学校生活のきまりを守る規範意識の向上を図るための指導を徹底していく。